

あぐりdeなんたん

南丹農業改良普及センターだより

令和4年2月
第24号



特集

普及計画活動 これからの3カ年

.....P2

- コロナ禍での普及活動.....P4
- 今後発生に注意すべき病害虫.....P5
- 新規就農者の紹介.....P6

ケーブルテレビを活用した情報発信、撮影の様子

- Topics.....P7
 - 表彰、退任・新任農業士の紹介
- お知らせ.....P8
 - 令和4年度就農サポート講座受講生募集
 - 新所長からの一言
 - New Face (新規採用職員紹介)

普及計画の紹介

当普及センターでは今年度から3年間の取組みとして、「人づくり」、「ものづくり」及び「地域づくり」を3本柱とし、合計4課題の重点計画を立て、各課題ごとにチーム活動を行っています(表)。

「人づくり」では個別農家や大規模農家の支援、「就農サポート講座」の実施や営農類型モデル指標づくりによる若手農業者の支援を行い、「ものづくり」では水稻、黒大豆の生産安定を目指しています。「地域づくり」ではほ場整備後の営農体制の確立に向けて支援をしています。今号では、各課題の取組状況について御紹介します。

表 各重点計画の取組み内容

区分	計画課題名	取組内容
人づくり	販路拡大の取組み及び営農管理システム導入を軸とした経営改善支援	・商談会を契機とした販路拡大への誘導 ・営農管理システム導入支援
	京都丹波農業を支える新規就農者の育成・定着支援	・新規就農者等への栽培基礎技術の習得支援(就農サポート講座の開催) ・新規就農相談対応シート及び営農類型モデル指標を活用した新規就農者の計画策定支援
ものづくり	黒大豆の安定生産と水稻病害虫防除対策の実施	・黒大豆の収量向上と安定生産 ・斑点米カメムシ類の防除対策支援 ・農業用マルチローターを活用した水稻の品質向上への取組み ・スクミリンゴガイの効果的な対策の実施
地域づくり	ほ場整備後の地域営農の確立	・集落営農組織の運営体制の確立 ・ほ場整備後の集落営農組織設立に向けた支援 ・ドローンによる防除作業の共同化をきっかけとした体制づくり支援

課題2

京都丹波農業を支える新規就農者の育成・定着支援

近年の就農支援策の充実等により、新規就農を希望する方が増加傾向で、地域農業の担い手として定着するために、農作物の基礎知識や栽培技術、経営感覚を早期に身につけることが求められています。

普及センターでは、新規就農者(研修者含む)等の農業技術習得の場として平成8年度から24年に渡って就農サポート講座を開催してきました。令和3年度は、座学や先輩農家への視察など、全6回



の講座を実施し、受講生18名全員が修了しました。

また、就農相談対応や新規就農者の経営計画作成に活用できるモデル指標等の作成に取り組んでいます。今後は地域に合った品目のうち新規就農者が比較的取り組みやすい品目の組み合わせを提案し、新規就農者への技術支援とともに、早期経営確立に向けたサポート体制の充実を図っていきます。



現地経営研修で先輩農家を視察

課題1

販路拡大の取組み及び営農管理システム導入を軸とした経営改善支援

1 商談会を契機とした販路拡大への誘導

販路拡大の方法として商談会があります。初めは参加しにくいものです。そこで「商談会☆ファーストステップ研修会」を開催し、新たな販路を考える農業者に商談会の様子や商品説明に活用するFCPシートについて理解を深めてもらいました。

この研修をきっかけに「きょうと農業ビジネス商談会2021」に参加された農業者は、買手への反応に手応えを感じるとともに、取引の実現に向けて栽培規模の見直し等の検討も始まっています。引き続き販路の確保に向けた取組みを支援していきます。

2 営農管理システム導入支援

経営規模が大きな経営体は、ほ場筆数や従業員が多いため栽培管理の現状把握や情報共有が不十分になりがちで、作業が適

期にスムーズに進まないなどの弊害が起こっています。

このため、営農管理システムを導入し、従業員の意見を基に作業日誌入力ファイルを修正するなど経営体に適した仕様へと修正を進めています。

今後、当システムを用いて、経営主と従業員相互の情報共有や効率的なほ場管理を可能にするとともに、経営強化に向けた有効な活用方法についてさらに検討・支援をしていきます。



「商談会☆ファーストステップ研修会」の様子

課題3

黒大豆の安定生産と水稻病害虫防除対策の実施

黒大豆は南丹地域の特産でありながら、生産量は減少が続いており、省力・安定生産技術の確立が課題です。

また、水稻では斑点米カメムシ類やスクミリンゴガイの被害が目立ってきており、その効率的な対策の普及が重要です。

1 黒大豆での主な取組み

黒大豆ではここ数年、利用が急増している農業用マルチローター(ドローン)による農薬散布の有効性について調査しました。ドローン防除請負業者の協力を得て、農薬散布を行い、黒大豆株のどの程度の高さまで散布液が付着するかを調査しました。その結果、株の下層ほど農薬は掛からず、また葉裏には余り掛からないことが分かりました。黒大豆でドローン防除を行う際には、散布した農薬成分が植物体内を移行する「浸透移行性」を有する剤の利用が有効と考えられました。



ドローンによる農薬散布



感水紙での農薬付着状況の確認

2 水稻での主な取組み

水稻では米の等級落ちの大きな原因となる斑点米カメムシ類の調査を行いました。その結果は、今後開催予定の研修会にて報告を行い、カメムシ類防除のポイント等を生産者の皆さんに紹介することにも、防除の重要性と適期防除が行いやすいドローン利用の検討も呼び掛けていく予定です。

ほ場整備後の地域営農の確立

亀岡市では、国営緊急農地再編事業や農地中間管理機構関連農地整備事業を活用したほ場整備が計画・実行され、各工区では、整備後にスムーズに営農できるよう、営農の組織化や栽培品目の検討が行われています。

そこで、新たな観光農園メニューを提案して先進地視察を行いました。
 今後は、新しい営農組織体制づくりや具体的な生産計画策定の支援を引き続き行います。

1 集落営農組織の運営体制の確立
 曾我部町（6集落）では、工事が完了した地区から営農を開始しており、タマネギ産地の復興を目指して、機械化・共同化を進めています。そこで、栽培研修会や現地試験を実施し、安定生産に向けた支援を行っています。

今後は、ほ場整備の進捗状況に合わせて集落毎の営農計画の策定を支援するとともに、ほ場整備後の大区画ほ場でのタマネギの安定生産を支援します。

2 ほ場整備後の集落営農組織設立に向けた支援

西別院町神地地区（こうち）では、ほ場整備後の営農体制として法人設立や新たな営農計画の策定を検討され



タマネギ栽培研修会の様子

コロナ禍での普及活動 ケーブルテレビを活用した情報発信

一昨年の1月に国内での初感染を確認した新型コロナウイルスはその後猛威を振るい、数回に渡って発出された緊急事態宣言等により、日常生活に大きな影響を与えています。

普及センターの活動についても例外ではなく、主要作物に関する講習会等、これまでは当たり前のように行ってきた農業者の方々の対面での活動に大きな制約が掛かっています。

平成8年度以来、毎年開催してきた新規就農者の方々を対象とした「就農サポート講座」も昨年度は開催を見送り、受講希望者には講義資料をお送りして対応しましたが、今年度は感染予防対策を徹底し、緊急事態宣言中は講座を延期するなどしながら全課程を終えることができました。

このような状況の中、効率的な情報伝達手段として、京丹波町ケーブルテレビと連携して、タイム



撮影の様子

リーな情報発信に努めています。

今年度は5月下旬から10月中旬までほぼ一週間間隔で、水稲や黒大豆、小豆等の管理技術等について合計17本の情報を発信しました。

テレビ放映に当たっては短期間でシナリオを作成したり、情報をわかりやすく伝えるため、専門用語は使わず平易な言葉で話す等苦労も多いですが、今後も時機を逸することなく、タイムリーな情報発信に努めていきます。

今後発生に注意すべき病害虫

★近年温暖化等の影響により、被害の目立つ病害虫のうち、特に昨年被害の大きかったものとその対策を紹介します。

ジャンボタニシ対応策

近年、暖冬が続いたことによりジャンボタニシの被害面積、被害度が増えています。

被害を防ぐためには、複数の防除対策の組み合わせが重要です。

一 冬期耕うん
 冬場にトラクターで耕うんし、貝を物理的に破砕します。殻に穴が開いた貝はいずれ死亡します。トラクターの走行速度は遅く、ロータリー回転数は速くします。

二 冬場の水路の泥上げ
 越冬場所をなくします。

三 田植え前の石灰窒素の施用
 石灰窒素のシアナミド成分が効きます。この方法では窒素が10%当たり4〜6kg投入されたことになるので、施肥は控えます。

四 水口網の設置
 水路からの侵入を防ぎます。網目は1cmくらいがよいでしょう。

五 田植え後の浅水管理
 水深を4cm以下に保ち、貝の活動を抑えます。

六 田植え後の農薬スクミノンの施用
 農薬散布後7日間は止水管理します。

防除対策資料

(https://www.pref.kyoto.jp/nantan/noonokkai/documents/jaanboota_nisiboujok.pdf)



スクミノン施用の翌日撮影 (全頭死滅しています)

斑点米カメムシ対策

米の格落ちの要因の一つは斑点米カメムシ類による着色粒(斑点米)であり、近年、南丹地域における斑点米発生率は非常に高くなっています。

イネの穂を加害するカメムシ類の多くは水田付近に生息し、植物の種子などを吸汁して生活し、地域や環境によって重要種が異なります。防除の基本はカメムシ類の



斑点米

増殖場所となる畦畔雑草等の除去(耕種的防除)と薬剤散布による防除(化学的防除)です。化学的防除の効率化・省力化につながる技術として、近年進歩の著しい農業用マルチローター(ドローン)の利用が注目されています。適切な防除を実施することで品質の向上が期待できます。

穂いもち対策

昨年は多くのほ場で穂いもちの発生が認められ収量・品質に影響を及ぼしました。

いもち病菌の生育・感染に好適な条件は、夏季の「低温・日照不足」といわれる条件に相当します。出穂期に降雨が続くと、いもち病菌の感染や増殖が助長され、より穂いもちが多発しやすくなります。窒素肥料の多施用はいもち



穂いもち

病の発生を助長します。農薬には、長期残効型箱施用剤や茎葉散布剤、粒剤等様々な剤があり、また、予防剤や治療剤があります。農薬の特性を理解し使用することが効果的な防除につながります。



新規就農者の紹介



「日々新た」で進む第二の人生

白石 真也・暁子さんご夫妻
(亀岡市菅我部町)



会社勤めをされていた白石さんが就農しようと思っただきっかけは、休日に友人の家庭菜園の手伝いを始めたところ、自分で育てた野菜の収穫をしていくにつれ、農業の楽しさや面白さを知り、第二の人生として就農を決意されました。先進農家での2年間の研修を経て、令和元年度に就農されました。

現在は亀岡市にある「ファーマーズマーケットたわわ朝霧」等に出荷され、周年でハウスホウレンソウ、夏場は露地ナス、ハウスコマツナ、冬場はハクサイ、ブロッコリー、ハウス半促成キュウリ等の栽培をされており多忙な日々を送られています。また、妻の暁子さんは収穫した野菜を使用したパウンドケーキを試作されるなど野菜の出荷だけでなく日々夫妻で新たな事にも挑戦されています。

「おいしい」農産物を届けたい

堤 虎太さん
(南丹市園部町)



生まれも育ちも田舎で過ごし、「いつかこの自然の中で仕事が出来たら」と考え「農業を一から勉強していきたい」と思った」と虎太さん。

自然の中で仕事が出来ると魅力もあり、安心で安全な農産物を作り家族や消費者にいいと思ってもらえるように、という思いから2年間の研修を経て平成31年2月に就農されました。栽培の面白さを経験し、やりがいと魅力を感じた水稻を基幹品目に、組み合わせる野菜品目を現在模索中。軟弱野菜、果菜類なども経験する中、昨年から新たにエビイモ栽培に取り組むなど、意欲的に忙しく日々を過ごされています。また、病害虫防除や肥料散布などにドローンを活用するなど、新たな技術を取り入れる積極的な一面もお持ちです。

直接、お客さんへ届けています

岡田 篤・容子さんご夫妻
(京丹波町猪鼻)



元々、京都市内にお住まいだった岡田さんご夫妻は、「食養生」の考え方を取り入れた生活の中で、自然豊かな京丹波町猪鼻を選んで移住されました。

「せせらぎ農園」として営農を開始されましたが、当初は売り先が少なくノウハウもない中、あらゆる農法・品目を試しながら、化学農薬や化学肥料を使用せずに多品目栽培に取り組んでこられました。2年目から、マコモやナス、枝豆など少しずつ納得のいく野菜が栽培でき始めたといえます。妻の容子さんは電話やSNSを通じて農園の販路開拓に尽力されてきました。現在も京都市内への個別配達はなく自分たちで行い、お客さんとの会話を大切にされています。今後は、京都市内にある直営店「なかんちよ商店」の改装発展、有機農業を始める方へのサポートをしたいと考えておられます。

〈敬称略〉

令和3年度の叙勲

旭日単光章



清水 克次 (亀岡市)
ポインセチアを府内最大規模で生産され、花き生産に関する功績が認められました。

豊かなむらづくり全国表彰事業 農林水産大臣賞

農事組合法人 旭 (亀岡市)

「地域の農業は地域で守る」を合言葉に農地管理や農産物直売所の運営など持続可能な地域農業の確保と農村の活性化を図る取組みが高く評価されました。

京都府農林水産業

功労者表彰

〔亀岡市〕

澤田 晶介
農事組合法人 河原林

〔南丹市〕

片山 義久
塩貝 孝司
西村 義一
湯浅 勲
湯浅 洋次

〔京丹波町〕

今川 敏夫
岩田 恵一
そねっと合同会社
野間 和幸
平井 一三
有限会社 みずほファーム

京都府

若手農林漁業者表彰

小島 敬久 (亀岡市)

松崎 伸也 (南丹市)

綿井 裕幸 (南丹市)

村岸 豊 (京丹波町)

磨き上げた

知恵と技

令和3年度

農の匠・京都府農山

漁村伝承技能登録

農の匠 (優秀技能認定)

軽尾 一雄 (京丹波町)

「ホウレンソウの周年栽培」
良質な堆肥投入による地力増進や計画的な作付けを行い、部会設立から20年間部長として産地の高品質生産体制の基礎を築かれました。



技能登録された皆様

平井 妙子 (亀岡市)

〔亀岡行事食の伝承〕

下田 満代 (南丹市)

〔鯖のなれ寿司づくり〕

城崎 正継 (京丹波町)

〔京かんざしの高品質栽培技術〕

退任・認定された 農業士の皆さん

退任 お世話になりました

指導農業士

藤村 幸二 (亀岡市)

西田 恵子 (南丹市)

新任 よろしくお願ひします

指導農業士



関 徳義 (あつよし) (亀岡市)



中島 勲 (南丹市)

令和4年度 京都丹波就農サポート講座

受講生
募集の
ご案内

- ①対象 ①京都丹波地域の農業の担い手として基礎技術習得が必要な方
②農福連携に取り組む施設で農業技術の指導に携わる職員 計20名程度
- ②日時 令和4年5月～10月(予定) 平日 13時30分～17時
- ③会場 京都府園部総合庁舎(南丹市園部町小山東町藤ノ木21) 他
- ④講座内容 土壌肥料や病虫害防除、野菜や豆類の栽培技術、先進農家の経営視察研修等
計6回程度
- ⑤受講料 無料
- ⑥申込方法 申込書に記入の上、持参・郵送・FAX・電子メールで申込み
書類選考の上、4月末日までに受講生を決定
募集要領・申込書の請求は普及センターまで
(普及センターのホームページにも掲載予定)
- ⑦締切 令和4年4月20日(水) 必着
詳細は下記電話番号までお問い合わせください。



※新型コロナウイルス感染症の影響により、内容が変更となることがあります。

新所長からの一言

令和3年4月に当普及センターに配属になりました稲田です。11年ぶりにまたこの美しい農村風景に囲まれた京都丹波地域の普及現場で勤務することができ、大変うれしく思っています。ここ京都丹波地域は都市近郊地域から中山間地域まで多様な農業が営まれ、農業者の皆さんの懸命な農業生産への努力により変わらぬ美しい農村風景が生み出されていると改めてその素晴らしさに感動します。

まだしばらくコロナ禍の影響向き合う日々は続くものと思われ、農業を取り巻く状況は依然として厳しいですが、この美しい農村風景とともに農業農村が少しでも良くなるよう普及指導員が皆さんと共に考え、取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願います。



普及センター所長
稲田 佳奈

新規採用職員 藤井 拓也 技師

亀岡市曾我部町、西別院、東別院と賀茂なすを担当しています。まだ右も左も分らないですが、先輩や地域の生産者には日頃より親身に接してもらい非常に心強いです。

これからはより知識を身につけ、日々現場に向き、生産者のどんな課題でも解決できるような信頼される普及員を目指していきたいです。

また、妻と3歳と1歳の娘2人のためにも頑張っています。



New Face

新規採用職員 能勢 桃代 技師

亀岡市種田野町、吉川町、旧亀岡町、農業気象を主に担当しています。まだまだ分からない事がたくさんありますが、現場に貢献できるよう、日々生産現場や先輩方から勉強しています。一人前の普及員になるために、農家の方の声を傾け、これから様々な経験を積んでいきたいと思っています。よろしく願います。



New Face

編集・発行

京都府南丹広域振興局
農林商工部
南丹農業改良普及センター

京都府南丹市園部町小山東町藤ノ木21
TEL.0771-62-0665 FAX.0771-63-1864
ホームページ▶<http://www.pref.kyoto.jp/nantan/no-nokai/>
E-mail▶nanshin-no-nantan-nokai@pref.kyoto.lg.jp